

「人間とは何か」を問いつづける

私たちは人間学を基礎として幅広い視野を持つ、質の高い実践家を育成します。



2026

田園調布学園大学大学院

人間学研究科

子ども人間学専攻

心理学専攻

小学校教諭専修免許状・幼稚園教諭専修免許状(子ども人間学専攻)、公認心理師(心理学専攻)が取得可能／長期履修制度有り
入学資格審査制度有り(短大卒業者、専門学校卒業者でも受験可能)／社会人特別入試を実施

田園調布学園大学大学院

人間学研究科

子ども人間学専攻

心理学専攻

田園調布学園大学大学院人間学研究科が目指すのは、

実践の中で省察ができる、「真の実践家」の養成。

自らが実践している教育・保育や心理支援に即して「省察できる力」をはじめ、

多様なニーズに応える力や日々の実践の中で解決すべき課題を発見し、

適切かつ柔軟な対応を生み出せる力の養成を目的にしています。

子ども人間学専攻の教育の特色

「子どもを人間としてみる」という新しい教育・保育観に立つ「子ども人間学」は、子どもという存在を通して、人間とは何かを探求し、子どもの育ちと教育・保育のあり方を追究する学問です。「子ども人間学」を学ぶことで、子どもをめぐる現代社会の問題も含めて省察し、幅広い視点から現状の課題を探究・解決できる力を身につけることができます。

心理学専攻の教育の特色

人間学的学識に基づき、支援を求める個人や集団の多様性・多元性を尊重し、人々との関わりの中で省察する力を持った心理支援の専門家「公認心理師」を養成します。幅広い視点から現代社会が抱える心理支援の課題を探究・解決できる力を身につけ、質の高い高度な心理支援の実践家を目指すことができます。

学術大学院で 「人間」から「専門」を問う

田園調布学園大学 学長

米山 光儀



田園調布学園大学大学院は、人間学研究科修士課程のみの大学院です。同研究科は子ども人間学専攻の1専攻でスタートしましたが、その後心理学専攻が設置され、現在は2専攻になっています。子ども人間学専攻では、幼稚園教諭専修免許状・小学校教諭専修免許状を取得できるようになっていますし、心理学専攻では公認心理師の受験資格を得られるようになっていますから、両専攻ともそれらの資格を取得することをめざす院生も多くいます。このように、本研究科では、多くの院生たちは修士号を取得するための研究指導だけでなく、専門職に就くための教育を受けています。

しかし、ここで注意していただきたいのが、田園調布学園大学の大学院は、専門職

大学院ではなく、学術大学院であるということです。研究科の名称に「人間学」がついていることからわかるように、本研究科では、人間を研究することを基礎として、その上で保育学・教育学や心理学などの個別分野の学問研究を行っています。高度専門職になるためには、当然のことながら専門知識や技法を知らなくてはなりませんが、その根底には、人間を問う姿勢が必要であり、学問研究をすることで、人間にとっての専門知識や技法の意味を問い直していくことが求められています。

現代社会は、高度専門職を必要としている社会です。しかし、20世紀初頭にM.ヴェーバーが『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で予言したように、現代におい

ては「精神のない専門人」が問題となっています。本研究科は、単に資格を取って専門職になるのではなく、常に「人間」を問い、そこから「精神のない専門人」ではない専門職を輩出していくことをめざしています。高度専門職を養成しながらも、一方では常に「専門とは何か」を問うというパラドックスを本研究科では貫いています。単に資格を取得して専門職に就くということではなく、大学院で一緒に「人間」を問う学問研究を行うことによって、自惚れることのない「専門人」を輩出していければと思っています。



相互に刺激し、高め合える環境で 自ら考え組み立てる力を養う

田園調布学園大学
人間学研究科 研究科長 / 子ども人間学専攻

犬塚 典子

子ども人間学専攻では、「子どもを人間としてみる」ことを軸としています。「子ども」という概念が生まれたのは実は近代になってからのことで、それ以前は「身体の小さな大人」として扱われていたようです。17世紀のこの「子どもの発見」以降、世界中で様々な教育や支援が広がっていききました。一方で、現代の我々はどうでしょう。「大人と違って独自である」とするあまり、子どもを「人間としてみる」という視点が欠如してしまっている側面はないでしょうか。とりわけ現代の教育現場では効率化が求められる傾向にあり、多くの問題や行き詰まりが起こっています。そこでもう一度、「子どもの様子をよく見る」という原点に立ち返り、教育全体を立て直そうというのが本専攻の一つの大きなテーマとなっています。

私自身が重視しているもう一つのテーマは「人間を子どもとしてみる」ということです。法令で「成人」として扱われる「大人」は必ずしも完成された存在ではありません。人間は加齢とともに脳機能が低下すると思われがちですが、脳は私たちが考える以上に変化する可能性をもち、失われた機能を補い学習によって環境に対応し変化し続けます。

本大学院には20～60代の幅広い年代の院生が在籍しています。中でも保育園や幼稚園、小学校などで働きながら学ぶ人が多く、異なる経験を持つ者同士が互いに刺激し高め合える環境です。職場ですぐに活かせる即効性を追い求めたり、単に手法を覚えたりするのではなく、広い視野でじっくりと研究に取り組み、自分で考え組み立てる力を養うことで、

結果的に汎用性を持った成果が得られることでしょう。そういう意味で、「人間とは何なのか」を突き詰めていく本大学院での学びは、職業専門教育だけを行うものではなく生涯学習の一環となるものです。

そして、「専門性」とは「有償」で行われる活動だけに存在するわけではありません。私たちの社会には無償もしくはきわめて安価に専門的な活動に従事し省察的な実践を行う人々があります。家族のケアや地域でのボランティア活動も含まれるでしょう。これまで当然のこととして捉えてきたことの1つ1つを常に問い直し、自分自身を振り返りながら実践を重ねる「省察的实践家」としての素養を、本大学院で磨いてもらいたいと思います。

実践と探究の両輪で育む 心理学の未来

田園調布学園大学
人間学研究科 副研究科長 / 心理学専攻

黒田 美保

心理学専攻では、高度な専門性と実践力を備えた人材の育成を目指し、多様なカリキュラムと充実した研究指導体制を整えています。2017年に創設された国家資格「公認心理師」は、医療・保健、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働という5つの分野を中心に、幅広い領域での活躍が期待されています。複雑化する現代社会の課題に応える心理専門職として、その重要性は今後ますます高まっていくでしょう。私もこの制度の立ち上げに関わり、第1回公認心理師試験の試験委員を務めた経験から、心理職が社会的に認知される枠組みの整備が進む意義を深く感じています。

こうした社会的ニーズに応えるために、本大学院心理学専攻では「省察的实践家の養成」を教育理念に掲げ、知識や技術だけでなく、

く、自らの在り方を省みながら学び続ける姿勢を重視しています。心理相談や心理検査を含む実習にも力を入れており、多様な学外実習に加え、学内に設置された心理相談室での実践もカリキュラムに組み込まれています。教員陣には、スクールカウンセラーや医療機関の心理職、保健所や高齢者施設での心理支援実践者など、豊かな実務経験を持つ専門家がそろっており、多角的な視点からの丁寧な指導が可能です。私自身も大学で教える以前は、公務員として幼児の発達センターに勤務し、発達障害のあるお子さんとご家族の支援に取り組んでいました。また、大学病院などの医療機関でも心理士として研鑽を積みました。加えて、心理臨床の現場だけでなく、研究活動にも力を注いできました。研究的視点と

臨床実践を往還しながら学びを深めていくことの大切さを実感しています。

なお、本専攻では、公認心理師を目指す学生に限らず、心理学そのものに深い関心を持ち、純粋に学術的な探究を志す学生の学びも大切にしています。心理学の多様な魅力に触れながら、自らの問いを深めていける柔軟で豊かな学びの場を提供しています。公認心理師を志す方も、心理学の探究に力を注ぐ方も、自分の可能性を信じて前進してほしいと願っています。自分を信じるのが、他者を支え、理解し、信じる力へとつながります。人間を深く見つめ、自己と向き合いながら、それぞれの歩みを着実に進めていってください。



—— 専攻の概要

課程名称 人間学研究科 子ども人間学専攻 修士課程

取得できる学位 | 修士(子ども人間学)

取得可能な資格 | 小学校教諭専修免許状・幼稚園教諭専修免許状

標準修業年限 | 2年 ※長期履修制度有り(修業年限を3年または4年に延ばすことが可能)

授業 | 平日夜間(18:10～)および土曜日

—— カリキュラム



基礎科目 | 「人間学総論」を通して、子ども人間学の基礎を養います。

基本科目 | 人間とは何かについて俯瞰的、包括的に探究できる[人間学概論Ⅰ(哲学と人間)][人間学概論Ⅱ(文学と人間)][人間学概論Ⅲ(政治と人間)][人間学概論Ⅳ(芸術と人間)][人間学概論Ⅴ(自然と人間)]を配置。「人間学概論Ⅱ～Ⅴ」は小学校・幼稚園教諭専修免許状取得のための科目も兼ねています。省察的実践家としての基盤をしっかりと固めます。また、「人間学研究法」を通して、修士論文の作成方法や研究方法を身につけます。

専門科目 | 子どもを核とした複雑で多層的な教育・保育実践を適確にとらえ、その背景や構造を読み解く力を「子ども人間学領域」と「関連領域」で養います。

子ども人間学領域

「子ども人間学」の観点から、子どもという存在を人間としてどのように理解するべきか、その文化思想的変遷、教育・学習発達観を問い直し探究するために、「学び学特論」「子ども思想史特論」「子どもとアート論」「子どもとことば論」「発達心理学特論」の5科目を用意。また、子どもの育ちや子育てを支える教育・保育実践のあり方や実践における専門性の高度化に資する13科目も用意。こうした科目の履修を通して、自らの教育・保育実践が、実践共同体となる学校・園や施設・家族・地域社会・国および地方自治体・国際社会などどのように関連しているのかを吟味しつつ、専門性を高めていきます。小学校・幼稚園教諭専修免許状取得のための科目も含まれます。

関連領域

子ども一人ひとりの発達過程における経験の意味や実存について考えるために重要となる心理学専攻の専門科目、子どもの人権を保障して社会全体のウェルビーイングを支える社会福祉学分野から6科目を配置。これらの科目は、個々の学生の研究テーマや修了後に目指す具体的専門職への人材養成の観点から、探究する専門性に応じて選択可能な科目としています。小学校教諭専修免許状を取得するための科目も含まれます。

研究指導 | 「研究指導」は1年次から他の科目と並行して履修でき、自分自身が興味をもった研究テーマを熟成させながら、明確化できるようにします。1年次は主に研究方法の確立を目指し、予備調査などにより研究計画を練り上げていきます。2年次は、確立した研究方法をもって研究課題に取り組み、データの収集・解析などを行い、研究成果としてまとめていきます。

開講科目一覧 (2025年度)

※開講科目および担当教員は変更になる場合があります

科目区分		授業科目名	担当教員	単位数	履修区分	配当学年	開講期	教職科目 (小)	教職科目 (幼)
基礎科目		人間学総論	米山 光儀	2	必修	1年	前期		
基本科目		人間学概論Ⅰ(哲学と人間)	生田 久美子	2	選択	1・2年	後期		
		人間学概論Ⅱ(文学と人間)	安藤 公美	2	選択	1・2年	後期	●	●
		人間学概論Ⅲ(政治と人間)	藤森 智子・國見 真理子	2	選択	1・2年	前期	●	●
		人間学概論Ⅳ(芸術と人間)	安村 清美・三政 洋一	2	選択	1・2年	後期	●	●
		人間学概論Ⅴ(自然と人間)	仙田 考	2	選択	1・2年	前期	●	●
		人間学研究法	犬塚 典子・櫻井 優太	2	必修	1年	前期		
専門科目	子ども人間学 領域	教育的ケアリング特論	吉國 陽一	2	選択	1・2年	後期	●	●
		学び学特論	生田 久美子	2	選択	1・2年	後期	●	●
		保育学特論	内藤 知美	2	選択	1・2年	前期		●
		子ども思想史特論	杉下 文子	2	選択	1・2年	後期	●	●
		保育実践研究	高嶋 景子	2	選択	1・2年	前期		●
		保育者特論	高嶋 景子	2	選択	1・2年	前期		●
		子ども・子育て支援実践研究	犬塚 典子	2	選択	1・2年	後期	●	●
		児童家庭福祉特論	渡辺 令子	2	選択	1・2年	後期	●	●
		家族社会学特論	小玉 亮子	2	選択	1・2年	後期	●	●
		子ども政策特論	渡邊 英則	2	選択	1・2年	後期	●	●
		教育学特殊研究	米山 光儀	2	選択	1・2年	前期	●	●
		子どもとアート論	安村 清美・斉木 美紀子	2	選択	1・2年	前期		●
		子どもとことば論	内藤 知美	2	選択	1・2年	後期		●
		子ども環境学特論	仙田 考	2	選択	1・2年	後期	●	●
		発達心理学特論	横尾 暁子	2	選択	1・2年	前期	●	●
		保育・教育課程研究	宮里 暁美	2	選択	1・2年	後期		●
		子どもと英語特論	寺井 敦子	2	選択	1・2年	後期	●	
		学校等研究実習	小泉 和博	1	選択	1・2年	通年	●	●
	関連領域	主権者教育特論	國見 真理子	2	選択	1・2年	後期	●	
		障害児・者福祉特論(インクルーシブ論を含む)	新井 雅明	2	選択	1・2年	前期		
		地域福祉特論	和 秀俊	2	選択	1・2年	後期		
		精神医学特論	新井 久稔	2	選択	1・2年	前期		
		臨床心理学特論	高城 絵里子	2	選択	1・2年	後期		
		教育分野に関する理論と支援の展開	犬塚 秀実	2	選択	1・2年	前期	●	
研究指導		研究指導Ⅰ	米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・ 内藤 知美・仙田 考	2	必修	1年	前期		
		研究指導Ⅱ	米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・ 内藤 知美・仙田 考	2	必修	1年	後期		
		研究指導Ⅲ	米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・ 内藤 知美・仙田 考	2	必修	2年	前期		
		研究指導Ⅳ	米山 光儀・犬塚 典子・安村 清美・ 内藤 知美・仙田 考	2	必修	2年	後期		

修了要件

基礎科目2単位、基本科目中「人間学研究法」は必修、その他の基本科目から4単位選択必修、専門科目から14単位以上を修得、研究指導8単位を修得し、計30単位以上を修得すること。かつ、修士論文を提出してその審査に合格すること。

科目区分	履修区分	単位数
基礎科目	必修	2単位
	小計	2単位
基本科目	必修	2単位
	選択	4単位以上
	小計	6単位以上
専門科目	選択	14単位以上
	小計	14単位以上
研究指導	必修	8単位
	小計	8単位
合 計		30単位以上

3つの履修モデル

履修
モデル
1

小学校教諭専修免許状を取得し、
学校等の現場で教育の質の向上に取り組む
高度な専門的職業人を目指す

履修
モデル
2

幼稚園教諭専修免許状を取得し、
乳幼児教育施設等の現場で保育の質の向上に
取り組む高度な専門的職業人を目指す

履修
モデル
3

乳幼児教育施設・子ども家庭支援機関で、
保育の質の向上、相談支援を実践する
高度な専門的職業人を目指す

—— 専任教員紹介



米山 光儀 教授 (学長)

主な担当科目

- 人間学総論
- 教育学特殊研究
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
- 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

教育は、人間に固有の行為なのでしょう。最近では、人間以外の動物でも教育が行われているといわれることがありますが、それは「教える」であって、教育ではないという意見もあります。では、「教える」と教育は異なるのでしょうか。人間以外の動物も学習はしますが、学習と教育の関係はどうなっているのでしょうか。教育は私たちの身近にありますので、よくわかっているように思えますが、もう一度根底から一緒に考え直してみませんか。



犬塚 典子 教授 (研究科長)

主な担当科目

- 人間学研究法
- 子ども・子育て支援実践研究
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
- 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

子どもに関する学問は、身体的発達や認知能力について自然科学的方法で研究するものから、経済開発とかかわる国際比較研究、幼少期概念の分析から社会変化を解明する歴史的研究など、幅広いテーマと手法から成り立っています。人間形成全般とそれを支える価値や規範にかかわる学問であり、独創的、批判的、総合的な視座が必要となります。子どものような感性を大切に大学院での学びに活かして下さい。



安村 清美 教授

主な担当科目

- 人間学概論Ⅳ (芸術と人間)
- 子どもとアート論
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
- 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

子どもの遊びを通じた原初的なアート経験、先鋭の芸術家が提示するアート作品。何が同じで何が違うのでしょうか。遊びの根源であると考えられる創造的活動の過程への着目、或いは現存する様々なアートの表現形式がもつ輝きを解明することは、必然的に乳幼児期を端緒とする「人間」そのものへと回帰するはず。さあ、ここからスタートです。



内藤 知美 教授

主な担当科目

- 保育学特論 ● 子どもとことば論
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
- 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

「子どもたちは生活と遊びを通して学ぶ。その過程は複雑であり多様であり、そして豊かである」。子どもたちが生活する中で生起する事柄を、たとえそれが断片であったとしても、精緻につなぎ合わせ、具体的かつ明確なイメージを伴う「子どもの育ち」として捉えていく作業(研究)は、子どもを人間として見る目を養い、保育・教育が有する創造的側面への理解を深めます。「子ども」を核に、質の高い保育・教育のありようを考えていきましょう。



仙田 考 准教授

主な担当科目

- 人間学概論Ⅴ (自然と人間)
- 子ども環境学特論
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ
- 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

子どもは多様な環境とのかかわりを通して、多くを学び成長していきます。もの、場所、ひと、自然。子どもが環境に触れ、感じ、考える、その奥底にはなにがあるのか。環境の構成、その変容、また空間のデザインが子どもたちの気づきにどう関係するのか。豊かな子どもの育ちを培いうる子ども環境のあり方とはなにか。子どもと環境、そのつながりの世界を、センス・オブ・ワンダー(ふしぎがる・面白がる)な心を持って、ともに見て考えていきましょう。



横尾 暁子 准教授

主な担当科目

- 発達心理学特論

私達は、子どもの育ちとどのように向き合うことができるのでしょうか。発達の様相や仕組み、それらを規定する社会的・文化的・生物学的な要因について探求していくと、さまざまな学問領域間を往還するようなプロセスを辿ることは少なくありません。ご自身の関心や問題意識を出発点として、学際的な視点も持ちつつ、子どもの育ちやそれを支える関わりについて一緒に考えてまいりましょう。

—— 修士論文テーマ一覧

年度	論文タイトル	指導教員	
		主指導教員	副指導教員
令和6年度	幼稚園教育要領(1964)の成立と背景—教材等調査研究会幼稚園教育小委員会(1961～1964)に焦点をあてて—	犬塚 典子 教授	仙田 考 准教授
	日本の出産習俗から見える子ども観—産屋のある地域に注目して—	米山 光儀 教授	犬塚 典子 教授
	自己の変容と生成による中堅保育者の成長の過程—保育者としての転機とその専門性の様相に着目して—	内藤 知美 教授	仙田 考 准教授
	保育現場における「気になる子ども」の認識から受容まで—「気になる子ども」から「気にしていく子ども」のまなざしへ—	安村 清美 教授	犬塚 典子 教授
	教育学から見える病弱教育	米山 光儀 教授	内藤 知美 教授
	子どもの口から見える歯科的健康格差	米山 光儀 教授	生田 久美子 教授

—— 入学者受入れの方針 アドミッションポリシー ——

人間学研究科子ども人間学専攻では、次のような資質や素養を有する者に入学を許可します。

- ◆ 人間学的学識に基づく人間学の基礎を学び、また保育・教育の現場での経験を省察し、大学院での学問的探究に積極的に取り組むことができること。
- ◆ 子どもへの関心と共感を持ち、その育ちを支える実践や環境づくりに積極的に取り組み、子ども人間学の研究に携わろうという意欲があること。
- ◆ 幼稚園・認定こども園・保育所・学校・その他の児童福祉施設あるいは地域子ども・子育て支援事業の関連施設における保育・教育の充実に関わろうとし、そのために自らの研究を進めようとする意欲があること。

DCU 子どもひろば:みらい

「DCU 子どもひろば:みらい」は、田園調布学園大学が運営する子育て支援室です。大学内の施設を使用し、親子が集い、子育てを楽しむ交流の場としてつくられました。

専属の保育士や大学教職員が待機しており、子どもと大人の居場所として、ゆっくり過ごしてもらうことはもちろん、子育てや発達に関する相談もできます。現在は、未就学のお子さんとその保護者を受け入れています。

子ども人間学専攻の大学院生は、専属の保育士、田園調布学園大学の学生・教職員と一緒にスタッフとして参加することができます。



川崎市教育委員会との包括連携に関する協定

2025年2月、本学と川崎市教育委員会は包括連携に関する協定を締結しました。相互の有する教育資源を活用して、本学の院生が市内の教育現場で研究実習や参観をするなど、地域に根ざした質の高い学校教員の養成を行っていきます。





長年携わった“保育”を幅広い視野で学び直し、 定年退職後に、夢だった教員に

人間学研究科 子ども人間学専攻
修士課程 修了

渡辺 令子 さん

勤務先: 帝京科学大学 教育人間科学部
幼児保育学科 助教
田園調布学園大学大学院
非常勤講師

市の保育士としてキャリアをスタートし、障害児の療育施設、地域の子育て支援センター、児童虐待の関連部署と、保育に関する様々な現場の仕事に携わってきました。その間に私自身も3人の子の出生・育児を経験し、50代に入ってから、市役所で待機児童対策など保育行政の仕事に従事していました。その頃から定年後の生き方を模索するようになりました。趣味を極めるのか、何か仕事を続けるのか。自分が本当にやりたいことを突き詰めて考えると、純粋に「保育のことをもっと勉強したい」と思ったんです。この大学院が掲げる「子どもを人間としてみる」という言葉に感銘を受け、働きながら大学院に通いたいと当時の上司に相談すると「学んだことを我々にもぜひ教えてほしい」と背中を押してくださり、家族も応援してくれました。先生方は皆さん専門分野に対する広くて深い知見をお持ちなので、1つ1つの学びが新鮮でした。また一緒に学ぶのは多くが社会人で、働きながら通う意

欲の高い方ばかり。日頃出会えないような様々なキャリアを持つ方々と交流できたことは、大きな刺激になりました。

修士論文では「児童虐待の予防」について取り上げました。関連部署に10年在籍し、本当に様々な親子と接する中で、「どうして誰も気づけなかったのだろう」と思う場面が何度もあったからです。テーマは、「保育所等における児童虐待予防について」。実際に予防のために取り組まれている保育所等の園長先生方など、複数にインタビューさせていただいたのですが、長年現場にいても知らなかったことがいくつもあり、大変有意義なものになりました。それらをもとに何度も修正を重ねて修士論文を書き上げたときは、何物にも代えがたい達成感がありましたね。自分一人では決して成し遂げられなかったことなので、先生方には感謝でいっぱいです。

実は子どもの頃からずっと、教員になることが夢でした。就職のときに挫折してしまったのですが、心のどこかにずっと引っかかっていたんですね。何度か先生方から「これまでの経験を生かして大学の先生になっては？」と言っていたことがあり、自分にもチャンスがあるならと一念発起。求人サイトをチェックしては履歴書を送り続け、ご縁があって帝京科学大学に採用していただきました。60歳の3月に大学院を卒業し、31日付で定年退職。翌4月1日から大学教員としての新しい生活がスタート。今、学生の前に立って授業できることが、毎日うれしくて楽しくて仕方ありません。人はいくつからでも学ぶことができるし、ずっと思い続ければ夢が叶うこともある、そんな経験も伝えながら、保育士を目指す学生たちの夢を応援したいです。

ESDの視点に立った幼児教育の実践を

もともとは音楽関係の仕事をしていましたが、実家が代々幼稚園を経営しており、4代目として引き継ぐことになりました。幼稚園教諭一種免許状は通信で取得しましたが、実際に自分が園長となって運営していくにあたって、大学院で論文を書くことを通して経験値を上げたいと思い3年間学ぶことにしました。

在学中に着目していた研究は「幼児教育におけるESD(Education for Sustainable Development)の実践」についてです。「持続可能な社会づくりの担い手を育てる」「環境問題や人権問題など社会的なテーマを考え実践していくことを身につける」というESDの考えが、小中高、大学の教育現場では浸透しているにも関わらず、幼児教育の現場ではほとんど知られていませんでした。そこで未来のために幼児教育の中でどのように実践していくべきかを考察することにしたのです。その中で注目したのが、「皮膚接触コミュニケーション」です。子ども、親、保育者といった幼稚園に存在する多角的な関係者間で手をつなぐなど、言葉ではなく皮膚の温もりを通した非言語のコミュニケーションを交わすことにより、相手とのつながりを感じられ、その経験や記憶が、持続可能な地域づくりに寄与するのではと、ESD実践の1つとして修士論文のテーマに選びました。

卒業後も運営する園で皮膚接触コミュニケーションの実践を続けていましたが、コロナ禍となった2020年はそれが叶わなくなりました。閉塞感が漂う中、子どもたちにどうにかしてわくわくする経験をつくれなかと模索し、「異文化交流プログラム わくわくオンライン」を企画。フィリピン、ニュージーランドの子どもたちと園児をオンラインでつなぎ、互いの国の文化や伝承遊びを伝



人間学研究科 子ども人間学専攻
修士課程 修了

岡 秀樹 さん

勤務先: 学校法人久光学園
志のぶ幼稚園 園長

え合うプログラムを実践、また海外施設の保育者と合同研修を行いました。図らずもESDに直結する取り組みとなり、大きな手ごたえを感じましたね。大学院時代の恩師に背中を押していただき、この取り組みをまとめた報告書を提出したところ、日本人2人目となる、世界OMEF(世界幼児教育機構)主催ESDアワード2021を受賞することができました。

大学院に入って特によかったと思うことの1つが、視野を広く持てるようになったことです。教授からの教え、様々なバックボーンを持つ仲間との出会い、保育だけでなく、政治や哲学、自然など、幅広い分野の文献を読み学べたこと。これらの経験によって、自分の立ち位置や園のことを客観的に見られるようになりました。もしも大学院に入っていなければ、自分の園の世界がすべてで、主観でしか保育をできていなかったかもしれませんね。



学びを還元し、未来の保育者へ 保育の魅力とやりがいを伝える存在に

人間学研究科 子ども人間学専攻
修士課程2年

赤坂 秋実 さん

出身大学: 田園調布学園大学
子ども未来学部
子ども未来学科

大学に在学中、保育の楽しさややりがいに気づく一方で、その難しさにも直面しました。周囲では保育以外の道を選ぶ同期も多く、「保育の現場に立つ人たちを支えたい」という思いが自然と芽生えてきました。その思いを形にするためには、現場での経験に加えて、大学院で専修免許状を取得し、養成校の教員になることも一つの選択肢だと考えました。

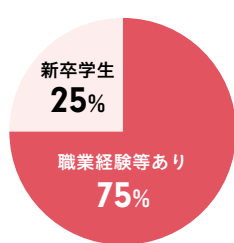
大学4年生の頃から早期履修制度を活用し、大学院の講義にも参加。少人数制で先生方や先輩・同期と深く語り合える学びの場に魅力を感じ、大学院への進学を決意しました。保育士と幼稚園教諭一種免許状の資格を大学で取得し、大学卒業後は幼保連携型認定こども園に保育教諭として就職しました。その後、仕事をしながら大学院入試に挑戦し、現在も現場に立ちながら大学院に通っています。

研究テーマは、保育の現場において「保育者がどのように子どもの怪我を見守り、向き合っているか」についてです。この研究テーマを選んだのは、子どもの怪我を案じ、気を揉みながら心をすり減らしていく現場の保育者の姿に疑問を抱いたからです。子どもの怪我は起こり得るものでありながら、同時に防がなければならないものでもあります。そうした中で、保育者の「見守り」のあり方には、その人自身の経験や保育観が大きく影響しているのではないかと、そんな仮説のもと研究を進めています。いずれはこの研究が、子どもの怪我予防、そして保育者の育成に役立てることができればと考えています。現在は、指導教員の内藤知美先生のご指導のもと、先行研究の検討を深めながら、インタビューで使用する質問項目の作成にも取り組んでいます。

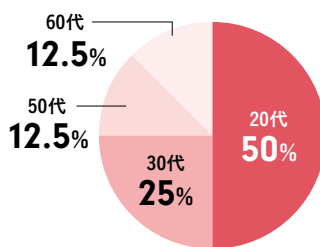
田園調布学園大学大学院では、先輩や同期、先生方とじっくり語り合える環境があり、人とのつながりの中で学びが深まっていると実感しています。親睦会やゼミ、シンポジウムなどの場を通じて得た刺激は、保育や研究へのモチベーションにつながっています。先生方とも距離が近く、気軽に相談できる関係性も魅力のひとつです。

まずは大学院で多くを学び、満足のいく修士論文を仕上げ、保育現場に還元したいと考えています。保育は難しさもありますが、子どもや同僚との関わりの中に大きな学びと喜びがある仕事です。将来は養成校で、保育の魅力ややりがいを伝えていけたらと思っています。

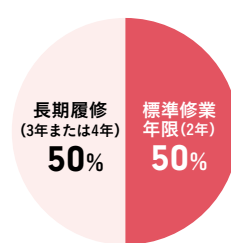
2023～2025年度 入学者データ



入学時の構成比率



入学時の年齢構成



入学時の履修状況

仕事等の都合に合わせて入学後に変更する方もいます

子ども人間学専攻FAQ

Q. 教育・保育学関連の学部等を卒業していませんが、受験できますか？

A. どの学部・学科を卒業しているかは問いませんので受験できます。しかし、受験する入試制度によっては関連の問題が出題されます。試験内容に関しては、過去の入試問題をご確認ください。

Q. 短大卒、専門学校卒でも受験することはできますか？

A. 個別の入学資格審査で「大学卒業者と同等以上の学力がある」と認められた場合、入学試験を受けることが可能です。入学資格審査については、大学院事務室までお問合せください。

Q. 社会人入試には出願条件がありますか？

A. 本学は社会人を「職業経験あるいは何らかの社会的実践活動または実務経験を5年以上有する者」と定めています。この条件を満たす大学卒業者、卒業見込の者又は入学資格審査で出願が認められた者であれば受験可能です。

Q. 過去の入試問題を見たいです。

A. 過去の入学試験問題については、大学院事務室で閲覧することができます。お越しの際は大学院事務室に事前にご連絡ください。

—— 専攻の概要

課程名称 人間学研究科 心理学専攻 修士課程

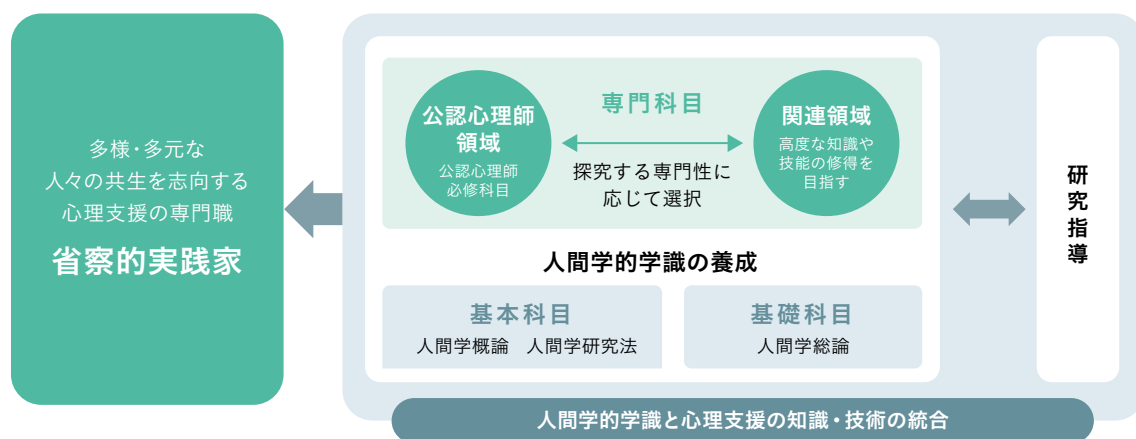
取得できる学位 | 修士(心理学)

取得可能な資格 | 公認心理師(受験資格)

標準修業年限 | 2年 ※長期履修制度有り(修業年限を3年または4年に延ばすことが可能)

授業 | 平日夜間(18:10～)および土曜日

—— カリキュラム



基礎科目 | 「人間学総論」を通して、人間学的学識の基礎を養います。

基本科目 | 人間とは何かについて俯瞰的、包括的に探究できる[人間学概論Ⅰ(哲学と人間)][人間学概論Ⅱ(文学と人間)][人間学概論Ⅲ(政治と人間)][人間学概論Ⅳ(芸術と人間)][人間学概論Ⅴ(自然と人間)]を配置。省察的実践家としての基盤をしっかりと固めます。
また、「人間学研究法」を通して、修士論文の作成方法や研究方法を身につけます。

専門科目 | 公認心理師養成カリキュラムを主体として、心理支援に関する理論と実践及び特論科目から、人々の多様性、多様性を尊重し心理的困難を抱える人々の心を適確にとらえ、その背景や本質を読み解く力を「公認心理師領域」、「関連領域」で養います。

公認心理師領域

公認心理師のために大学院において必要な科目が設置されています。心理師としての核となる理論と実践を学ぶ4科目や、公認心理師法で規定される5領域「保健・医療」、「福祉」、「教育」、「産業・労働」、「司法・犯罪」における心理支援の展開に関する5科目を設置。また、合計450時間の実習を「心理実践実習Ⅰ」「心理実践実習Ⅱ」「心理実践実習Ⅲ」の3科目に分けて実施します。心理実践実習では、対人援助の現場において、面接陪席、心理検査実習、病棟実習、グループ活動の陪席、スーパーヴィジョン、ケースカンファレンスなどの心理臨床の現場を学ぶ貴重な機会となります。

関連領域

関連領域は「精神医学特論」「リハビリテーション心理学特論」「コミュニティ臨床心理学特論」「認知行動療法特論」「臨床心理学特論」の5つの特論科目と、「公認心理師総合演習Ⅰ」「公認心理師総合演習Ⅱ」の演習科目を設置。心理師としてより高度で専門性が求められる知識や技能の修得を目指します。

研究指導 | 「研究指導」は1年次から他の科目と並行して履修でき、自分自身が興味をもった研究テーマを熟成させながら、明確化できるようにします。1年次は主に研究方法の確立を目指し、予備調査などにより研究計画を練り上げていきます。
2年次は、確立した研究方法をもって研究課題に取り組み、データの収集・解析などを行い、研究成果としてまとめていきます。

—— 開講科目一覧 (2025年度)

※開講科目および担当教員は変更になる場合があります

科目区分		授業科目名	担当教員	単位数	履修区分	配当学年	開講期
基礎科目		人間学総論	米山 光儀	2	必修	1年	前期
基本科目		人間学概論Ⅰ（哲学と人間）	生田 久美子	2	選択	1・2年	後期
		人間学概論Ⅱ（文学と人間）	安藤 公美	2	選択	1・2年	後期
		人間学概論Ⅲ（政治と人間）	藤森 智子・國見 真理子	2	選択	1・2年	前期
		人間学概論Ⅳ（芸術と人間）	安村 清美・三政 洋一	2	選択	1・2年	後期
		人間学概論Ⅴ（自然と人間）	仙田 考	2	選択	1・2年	前期
		人間学研究法	犬塚 典子・櫻井 優太	2	必修	1年	前期
専門科目	公認心理師 領域	心理的アセスメントに関する理論と実践	笠井 さつき	2	選択	1・2年	前期
		心の健康教育に関する理論と実践	伊東 秀幸	2	選択	1・2年	前期
		心理支援に関する理論と実践	黒田 美保・笠井 さつき	2	選択	1・2年	後期
		家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践	渡邊 由己	2	選択	1・2年	後期
		保健医療分野に関する理論と支援の展開	伊東 秀幸	2	選択	1・2年	前期
		教育分野に関する理論と支援の展開	大塚 秀実	2	選択	1・2年	前期
		福祉分野に関する理論と支援の展開	安崎 文子	2	選択	1・2年	後期
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	山岡 あゆち	2	選択	1・2年	前期
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	高城 絵里子	2	選択	1・2年	後期
		心理実践実習Ⅰ	黒田 美保・伊東 秀幸・大塚 秀実・高城 絵里子	2	選択	1年	前期
		心理実践実習Ⅱ	黒田 美保・伊東 秀幸・笠井 さつき・大塚 秀実	2	選択	1年	後期
		心理実践実習Ⅲ	黒田 美保・伊東 秀幸・笠井 さつき・高城 絵里子	2	選択	2年	前期
	関連領域	精神医学特論	新井 久稔	2	選択	1・2年	前期
		コミュニティ臨床心理学特論	渡邊 由己	2	選択	1・2年	後期
		認知行動療法特論	久保 義郎	2	選択	1・2年	後期
		臨床心理学特論	高城 絵里子	2	選択	1・2年	後期
		心理学統計法特論	櫻井 優太	2	選択	1・2年	後期
		公認心理師総合演習Ⅰ	黒田 美保・高城 絵里子	2	選択	2年	前期
		公認心理師総合演習Ⅱ	黒田 美保・伊東 秀幸	2	選択	2年	後期
		研究指導	研究指導Ⅰ	黒田 美保・伊東 秀幸・渡邊 由己・安崎 文子・ 笠井 さつき・櫻井 優太・大塚 秀実・高城 絵里子	2	必修	1年
研究指導Ⅱ	黒田 美保・伊東 秀幸・渡邊 由己・安崎 文子・ 笠井 さつき・櫻井 優太・大塚 秀実・高城 絵里子		2	必修	1年	後期	
研究指導Ⅲ	黒田 美保・伊東 秀幸・渡邊 由己・安崎 文子・ 笠井 さつき・櫻井 優太・大塚 秀実・高城 絵里子		2	必修	2年	前期	
研究指導Ⅳ	黒田 美保・伊東 秀幸・渡邊 由己・安崎 文子・ 笠井 さつき・櫻井 優太・大塚 秀実・高城 絵里子		2	必修	2年	後期	

—— 修了要件

基礎科目2単位、基本科目中「人間学研究法」は必修、その他の基本科目から4単位選択必修、専門科目から14単位以上を修得、研究指導8単位を修得し、計30単位以上を修得すること。かつ、修士論文を提出してその審査に合格すること。

科目区分	履修区分	単位数
基礎科目	必修	2単位
	小計	2単位
基本科目	必修	2単位
	選択	4単位以上
	小計	6単位以上
専門科目	選択	14単位以上
	小計	14単位以上
研究指導	必修	8単位
	小計	8単位
合 計		30単位以上

—— 2つの履修モデル

履修
モデル
1

公認心理師の取得を目指し、
高度な専門職として地域の心理支援を目指す。

履修
モデル
2

対人支援専門職である者が、
人間学的学識を備えた高度な心理支援の
実践家や研究者を目指す。

—— 専任教員紹介



黒田 美保 教授 (副研究科長)

主な担当科目

- 心理支援に関する理論と実践
- 心理実践実習Ⅰ ● 心理実践実習Ⅱ ● 心理実践実習Ⅲ
- 公認心理師総合演習Ⅰ ● 公認心理師総合演習Ⅱ
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

個々の発達の多様性を大切にしながら、お子さんやご本人が日常生活で困ることが少ないよう、個々人に合った方法をご本人やご家族と考える、発達臨床心理学を専門にしています。大学院時代は、社会に出てからも学び続けるための基盤をつくる貴重な期間だと思います。基盤をしっかり築き、ご自分の興味を大事にしながら、臨床心理家としてどうなりたいか、何が向いているのかを見極め、進みたい道を見つけていただきたいと思います。



伊東 秀幸 教授

主な担当科目

- 心の健康教育に関する理論と実践
- 保健医療分野に関する理論と支援の展開
- 心理実践実習Ⅰ ● 心理実践実習Ⅱ ● 心理実践実習Ⅲ
- 公認心理師総合演習Ⅱ
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

公認心理師を含む対人援助職には、カウンセリング技術のような臨床技術を修得するだけでなく、対象となる人そのものの理解と人を取り巻く環境となる社会を理解する必要があります。社会の理解とは、法律や制度、文化などといった側面とそれらの歴史を意識した学修になります。広い視野をもった高度専門職養成が、本専攻の目的の一つだと思います。多様な視点から議論し、目的に向かって一緒に研究を深めていきましょう。



渡邊 由己 教授

主な担当科目

- 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践
- コミュニティ臨床心理学特論
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

私の専門はコミュニティ心理学、臨床心理学です。高齢者や大学生への心理支援、多職種チームによる支援活動での心理専門職の役割に関する研究や実践、教育活動が主なものです。公認心理師という新たな国家資格を踏まえ、心理学がこれまで以上に社会へ貢献出来るよう、みなさんと共に精進していききたいと思います。



安崎 文子 教授

主な担当科目

- 福祉分野に関する理論と支援の展開
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

専門は言葉の障害についてです。同じ社交不安を感じていても、言葉を繰り返す吃音になったり、場面で言葉が全く話せなくなったりします。心理面での問題が全て同じ言語症状を引き起こすわけではありません。その機序としてやはり、神経認知面での違いがあると思います。心と認知と両面から、科学的に人を知ることが大切だと思います。良い研究と良い臨床は同じです。ともに学び合ひましょう。



笠井 さつき 教授

主な担当科目

- 心理的アセスメントに関する理論と実践
- 心理支援に関する理論と実践
- 心理実践実習Ⅱ ● 心理実践実習Ⅲ
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

精神分析の視点から、医療や学生相談、開業の心理相談室などのさまざまな臨床現場での心理臨床を長年実践し、その後大学院心理臨床センターで多くの大学院生の初期研修に携わってまいりました。初心の大学院生が、みずからもライフサイクルの中で悩みつつ、クライアントとともに大きく成長する姿に刺激され、支援に取り組んでいます。自分自身のこころも大切にできる心理支援職を目指して、いっしょに学びましょう。



櫻井 優太 准教授

主な担当科目

- 人間学研究法 ● 心理学統計法特論
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

私の専門は他の先生とは異なる領域で、感情心理学・生理心理学を専門としています。さらに、研究手法として実験を主に用いています。臨床ではない、いわゆる基礎心理学と呼ばれる分野です。この場合の「基礎」は決して「簡単・単純」という意味ではありません。人間の心理的機能に関する一般的な法則性や傾向を理解し、人間の心を理解していこうという学問領域です。ぜひ一緒に、心理学の最先端を歩んでみましょう。



大塚 秀実 准教授

主な担当科目

- 教育分野に関する理論と支援の展開
- 心理実践実習Ⅰ ● 心理実践実習Ⅱ
- 公認心理師総合演習Ⅰ ● 公認心理師総合演習Ⅱ
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

こころは単独で存在するのではなく、対人関係や経済活動などをはじめとする環境の中で存在しています。こころの専門家を目指す大学院では、様々な臨床的課題に対応するための知識を身につけ、理解を深めていきます。座学も実習も、修士論文の執筆も、すべてが貴重な時間となります。教員や仲間とともに学び、将来どのような心理臨床家になりたいのか、それぞれの道を見つけて欲しいと願っています。



高城 絵里子 准教授

主な担当科目

- 産業・労働分野に関する理論と支援の展開
- 心理実践実習Ⅰ ● 心理実践実習Ⅲ
- 臨床心理学特論 ● 公認心理師総合演習Ⅰ
- 研究指導Ⅰ ● 研究指導Ⅱ ● 研究指導Ⅲ ● 研究指導Ⅳ

現在心理職として主に発達支援の現場でお子様とご家族、そしてご家族を支える支援者へのサポートに携わっています。現場で感じるのは、適切な支援のためにはまず自分自身を理解し続け、整え続ける必要があるということです。大学院では、座学、研究、実習すべてが心理臨床家としての基盤となり、自分と出会う貴重な時間にもなります。みなさんと共に、時には悩み、時には楽しみながら、学びを進められることを楽しみにしています。

—— 修士論文テーマ一覧

年度	論文タイトル	指導教員	
		主指導教員	副指導教員
令和6年度	小児期・AYA世代のがんサバイバーの心的外傷後成長(PTG)に影響を及ぼす要因	櫻井 優太 准教授	渡邊 由己 教授
	ペットロス経験者が語るペット動物への思いについて—ペットロス経験者の動物観及び性格特性の関係から—	渡邊 由己 教授	—
	職場内でメンタルヘルス不調による休職者が発生した時、同僚が心理的負担を感じるまでの経過について考察	伊東 秀幸 教授	—
	アーティスト(実演家)におけるソーシャルサポート資源の認知に関する研究	渡邊 由己 教授	—
	スポーツ観戦に依存性はあるのか	櫻井 優太 准教授	—
	妊娠期の母親の心理と求める支援についての質的研究-助産院で出産を決めた妊婦の語りから—	伊東 正裕 教授	—
	大学生の保健行動と主観的健康統制感および特性的自己効力感との関連について	櫻井 優太 准教授	—
	内省が企業のマネジャーの事業実行と部下育成のプロセスに及ぼす影響	伊東 正裕 教授	—

—— 入学受入れの方針 アドミッションポリシー

人間学研究科心理学専攻では、次のような資質や素養があり、本専攻の教育課程及び教育・研究の指導体制に従って学術の研究を進め、それぞれの修学目的を達成する見込みがある者に入学を許可します。

- ◆ 知識・技能 ————— 心理学研究に不可欠な専門的基礎知識、特に心理支援に必要とされる心理アセスメント、介入についての基礎知識、技術を身に付けていること。
- ◆ 思考力・判断力・表現力 — 心理学研究遂行に必要な倫理的判断力、思考力及び表現力を身に付けていること。
- ◆ 意欲・関心・態度 ————— 建学の精神「捨我精進」に沿って、他者と協同して教育・研究・実践に当たることができ、人間の多様性、多元性の共生を志向する心理支援の専門家として社会に貢献する目標を持っていること。

田園調布学園大学心理相談室

田園調布学園大学 人間科学部心理学科および大学院人間学研究科心理学専攻で培ってきた知見を基に、令和6年4月、心理相談室を開設しました。

心理相談室は、大学院生にとって心理臨床の実践的な学びの場となると同時に、地域の皆さまの心の健康を支えることを目的としています。さらに人間福祉学部や子ども教育学部、大学院人間学研究科子ども人間学専攻で長年にわたり培ってきた、教育や福祉といった心の健康と深く関わる分野とも連携を図りながら、心理相談室としての活動を展開しております。

公認心理師を目指す大学院人間学研究科心理学専攻の学生は、公認心理師の資格を持つ教員の指導のもと、心理相談や心理検査などの実践的研鑽と、関連する研究活動に日々取り組んでいます。



ASD者の視覚特性に注目

細部にこだわり、納得いく研究成果を出すことが目標

昔から人の感情や行動に興味がありました。心理学を学ぶことで「心の仕組み」を体系的に理解できることに魅力を感じ、大学でその知識を深めました。さらにスキルを身につけたいと思い、大学院進学を決意しました。

修士論文は「ASD(自閉スペクトラム症)者におけるシェパード錯視の知覚特性」をテーマに進めています。シェパード錯視は、視覚的な錯視の一種で、視覚の特徴を探る上で有効です。ASDの方々は視知覚に独自の特性があり、錯視への反応の違いを分析することで、彼らの「世界の見え方」に近づけると考えています。元々、発達障害を持つ子どもたちへの支援に関心があり、視知覚に焦点を当てることで、彼らの特性に合った支援や環境調整の手がかりが得られるのではないかと考え、このテーマを選びました。研究を進める中で、コミュニケーションの困難さやこだわりといった中核症状だけでなく、認知や感覚特性なども重要だと気づき、物事を多角的に捉える視点が身につきました。

田園調布学園大学大学院は指導教員との距離が近く、研究の進め方や進路相談などできめ細かなサポートを受けることができ、自分のペースで学びを深めることができています。共に学ぶ仲間との関係も良好で、意見交換をする中で刺激を受けています。大学卒業後すぐに進学した学生や、社会人経験があり仕事と学業の両立をしている学生など異なるバックグラウンドを持つ

人間学研究科 心理学専攻
修士課程2年

高橋 歩希 さん

出身大学: 田園調布学園大学
人間科学部 心理学科

仲間たちとの交流は、いつも新しい視点や気づきを与えてくれます。

現在の目標は、修士論文で取り組んでいる研究を、さらに精度高く仕上げることです。実験設計やデータの分析の細部にこだわり、納得のいく研究成果を出すことが最大の目標です。将来は、発達障害を持つ子どもたちを心理的な側面から支援できるようになりたいと考えています。子どもたち一人ひとりの特性を理解し、安心できる環境づくりを進め、保護者や教育現場と連携しながらより良い支援を提供したいです。さらに、研究で得た知見を実践に活かし、子どもたちが自分らしく成長できるようサポートする支援者を目指しています。

介護福祉士が安心して仕事ができる 社会の実現に貢献したい

人間学研究科 心理学専攻
修士課程2年

川井 奈保子 さん

出身大学: 田園調布学園大学
人間福祉学部 人間福祉学科
介護福祉専攻

特別養護老人ホームで約15年間勤務し、心理的なストレスが原因で退職や転職する職員を数多く見送りました。制度だけでは限界があり、介護現場に心理学の視点や心理職の関わりが必要だと実感していました。その後、介護教員を目指して大学で学び直し、先行研究に取り組んだ経験から「論文を書いてみたい」という思いが芽生えました。自分の興味関心に合った研究をしている先生が地方の大学院にいと知り、そこで本格的に学びたいと思ったのですが、仕事と子育てとの両立という現実的な難しさに直面し、悩んでいました。そんな時、母校の伊東先生に相談すると「今の自分の環境の中で研究を始めてみてもいいのでは」と背中を押してくださり、田園調布学園大学大学院への進学を決意しました。現在は介護福祉士養成校で教員として働きながら、研究に取り組んでいます。

現在は、介護老人福祉施設の短期入所生活介護に従事する職員の心理的ストレスややりがいについて研究したいと考えています。自分自身が短期入所生活介護で働いていたときに強いストレスを感じた経験などから、職員が抱えるストレスや「辞めずに働き続けられる人のやりがいはいどこにあるのか」を明らかにしたいと考えました。悩むことも多いですが、先行研究に触れるたび関心が深まっていくのを感じます。自分の研究が現場で働く誰かの支えになればと思いますね。

先生方はいつも体調を気にかけてくださり、こちらの話にも丁寧に耳を傾けてくださいます。また事務の方々まで親身にサポートしてくださるのが心強いです。院生同士のつながりも深く、互いの意見を尊重し合える関係が築かれていて、LINEグループで情報を共有しながら日々支え合っています。そんな環境だからこそ、たとえ仕事で疲れていても、授業に参加するのが楽しみになっています。

目標は、介護福祉士の育成に携わり続けることです。現在の職場はもちろんですが、様々な介護福祉士の養成校の教育に関心があります。将来的には、研究や職能団体での活動を通して、介護職の方々が安心して働ける社会の実現に貢献できればと思います。

資格取得と研究を両立し、 人の気持ちに寄り添える心理師に

心理学に興味を持ったきっかけは、周囲の人から相談を受けたときに「どう伝えれば前向きになってもらえるだろう」と考えたことでした。また、自分自身が悩んだときにも「早く立ち直る方法を知りたい」と思い、心理学を学ぶことでそのヒントが得られるかもしれないと感じたからです。大学院に進学しようと思ったのは、公認心理師の資格が取得できることに加えて、心理学には5つの分野があるため、学部では学びきれなかった部分をもっと深く学び、自分に合った領域を見つけないかと思ったからです。実習も学部より多く、3カ所ほどの現場に行かせていただきました。それぞれ違う領域の心理職の仕事に触れることができ、働く自分の姿をイメージする機会にもなりました。

私の研究テーマは「大学生の保健行動と主観的健康統制感および自己効力感との関連」です。大学生は生活習慣が不規則になりやすく、保健行動が疎かになる傾向があります。個別の心理特性に合わせた保健指導の必要性を感じたことからこのテーマを選びました。学内の学生100名以上にアンケートを実施し、統計分析を重ねながら、生活習慣と心理的要因の関係を探りました。研究を通じて、学生の保健行動の大切さを再認識するとともに、自分自身の生活を見つめ直すきっかけにもなりました。

大学院では、同期の半分が社会人で年上の方々がでしたが、授業後やイベント後にご飯を食べに行ったり、自然と仲が深まりました。課題が多い中でも、互

人間学研究科 心理学専攻
修士課程修了

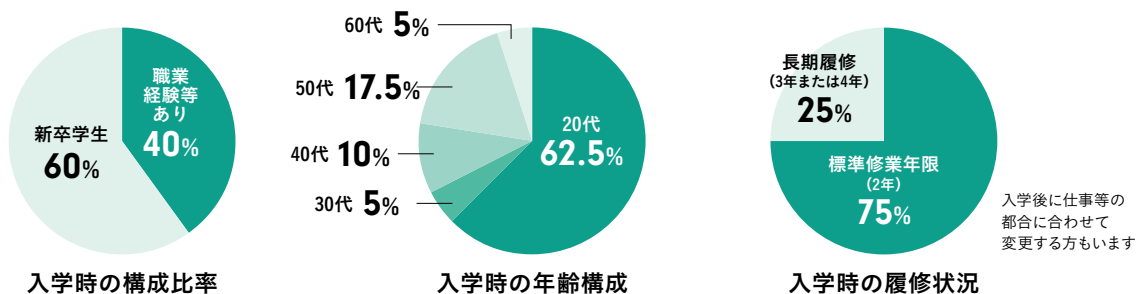
橋本 美織 さん

勤務先：川崎市役所 こども未来局
南部児童相談所



いに支え合えたことで、最後まで学び続けることができたと感じています。先生方とても話しやすく、疑問や提案にも耳を傾けてくれ、学生の声を反映してくださるため安心感がありました。指導教員以外の先生方とも関わる機会が多く、広い視野で学べたことも、ここで学ぶ大きな魅力のひとつです。現在、私は児童相談所に勤務しています。大学院で学んだ「困りごとを抱える人だけでなく、その周囲も含めて支援を考える姿勢」を大切に、子どもだけでなく保護者や支援者への関わりも意識しています。一人ひとりに合った支援ができるよう、これからも学びを深めていきたいです。

2022～2024年度 入学者データ



心理学専攻FAQ

Q. 心理学関連の学部等を卒業していませんが、受験できますか？

A. どの学部・学科を卒業しているかは問いませんので受験できます（公認心理師の受験資格取得を希望される方は、4年制大学において省令の定める科目の単位を修得し卒業している必要があります）。しかし、受験する入試制度によっては関連の問題が出題されます。試験内容に関しては、過去の入試問題をご確認ください。

Q. 社会人入試には出願条件がありますか？

A. 本学は社会人を「職業経験あるいは何らかの社会的実践活動または実務経験を5年以上有する者」と定めています。この条件を満たす大学卒業者、卒業見込の者又は入学資格審査で出願が認められた者であれば受験可能です。

Q. 取得できる資格について教えてください

A. 4年制大学において省令の定める科目の単位を修得し卒業後に本学に入学した方は、指定科目を修得し修了することで公認心理師の受験資格が得られます。

Q. 過去の入試問題を見たいです。

A. 過去の入学試験問題については、大学院事務室で閲覧することができます。お越しの際は大学院事務室に事前にご連絡ください。

2026年度 入学者選抜試験日程 (子ども人間学専攻・心理学専攻 共通日程)

区分	入試制度	出願期間	選考日	合格発表	手続締切日
Ⅰ期	一般入試Ⅰ期	2025年9月22日(月) ～10月3日(金) (消印有効)	2025年 10月11日(土)	2025年 10月14日(火) (郵送)	2025年 10月24日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅰ期				
	社会人入試Ⅰ期				
Ⅱ期	一般入試Ⅱ期	2025年11月17日(月) ～11月28日(金) (消印有効)	2025年 12月6日(土)	2025年 12月9日(火) (郵送)	2025年 12月19日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅱ期				
	社会人入試Ⅱ期				
Ⅲ期	一般入試Ⅲ期	2026年1月26日(月) ～2月6日(金) (消印有効)	2026年 2月14日(土)	2026年 2月17日(火) (郵送)	2026年 2月27日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅲ期				
	社会人入試Ⅲ期				
Ⅳ期	一般入試Ⅳ期	2026年2月16日(月) ～2月27日(金) (消印有効)	2026年 3月7日(土)	2026年 3月9日(月) (郵送)	2026年 3月13日(金) (消印有効)
	推薦入試Ⅳ期				
	社会人入試Ⅳ期				

選考方法

子ども人間学専攻

入試制度	選考方式
一般入試	・筆記試験(専門科目) ・口述試験(面接)・書類審査
推薦入試	・小論文・口述試験(面接) ・書類審査
社会人入試	・口述試験(面接) ・書類審査

心理学専攻

入試制度	選考方式
一般入試	・筆記試験(専門科目・英語) ・口述試験(面接)・書類審査
推薦入試	・筆記試験(専門科目) ・口述試験(面接)・書類審査
社会人入試	・筆記試験(専門科目) ・口述試験(面接)・書類審査

入学資格審査

◆ 入学資格審査制度 | 短大卒業者や専門学校卒業者にも受験チャンス

短大卒業者や専門学校卒業者であっても、入学試験前に入学資格審査を受けることによって、本学が大学卒業者と同等以上の学力があると認めた場合入学試験を受けることができます。入学資格審査については、大学院事務室までお気軽に問い合わせください。

● 入学資格審査から大学院入学までの流れ



● 入学資格審査日程

区分	選考方法	受付期間	審査日	結果発表	備考
1回目	書類選考 ※必要に応じて面接を実施します。	2025年8月25日(月) ～9月5日(金)(消印有効)	2025年9月13日(土)	2025年9月16日(火) (郵送)	Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期 入試出願可能
2回目		2025年9月22日(月) ～10月3日(金)(消印有効)	2025年10月11日(土)	2025年10月14日(火) (郵送)	Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期 入試出願可能
3回目		2025年11月17日(月) ～11月28日(金)(消印有効)	2025年12月6日(土)	2025年12月9日(火) (郵送)	Ⅲ期、Ⅳ期 入試出願可能
4回目		2026年1月26日(月) ～2月6日(金)(消印有効)	2026年2月14日(土)	2026年2月18日(火) (郵送)	Ⅳ期 入試出願可能

—— 忙しい社会人に対応した、学習環境

◆ 授業は、平日夜間・土曜日に開講

社会人の方が就業しながら通学できるように平日夜間（18:10～）と土曜日に授業を開講します。

	授業時間	月～金	土
1限目	9:00～10:30		授業時間
2限目	10:40～12:10		
3限目	13:00～14:30		
4限目	14:40～16:10		
5限目	16:20～17:50		
6限目	18:10～19:40	授業時間	
7限目	19:45～21:15		

◆ 長期履修制度

仕事が忙しい社会人学生を対象に、修業年限を延長し計画的に履修できる 長期履修制度を整えています。

長期履修制度を利用し、修業年限を3年または4年に延長した場合でも、授業料・施設費・教育充実費は2年間分で済みます。

※入学試験時又は入学後に申請することができます。

※入学後一回に限り、長期履修期間を見直すこともできます。

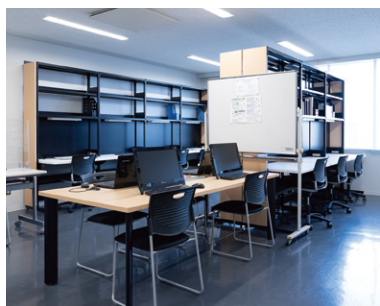
対象	常勤の職業を有する者または、育児・介護等の事情により2年間の標準修業年限での履修が困難な者。
長期履修期間	3年または4年

—— 施設案内



図書館

平日・土曜日に開館しており、地下1階、地上2階建ての図書館には様々な分野の書籍・雑誌があります。研究や自習等に活用されています。



院生研究室

研究科共通の院生研究室です。研究のために使用できる書棚や個人ロッカー、共同PCやプリンタがあります。



教室・セミナー室

大学院の授業はグループワークなど双方向コミュニケーションを含む授業も多いため、行事や授業内容・履修者数に応じて使用されています。

学費

子ども人間学専攻

● 標準修業年限（2年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	
入学金	200,000	—	—	—	入学時のみ
授業料	250,000	250,000	250,000	250,000	
施設費	100,000	100,000	100,000	100,000	
教育充実費	50,000	—	50,000	—	
納付金合計	600,000	350,000	400,000	350,000	
年間納付金額	950,000		750,000		

● 長期履修学生制度（3年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	—	—	—	—	—	入学時のみ
授業料	170,000	170,000	165,000	165,000	165,000	165,000	
施設費	70,000	70,000	65,000	65,000	65,000	65,000	
教育充実費	40,000	—	30,000	—	30,000	—	
納付金合計	480,000	240,000	260,000	230,000	260,000	230,000	
年間納付金額	720,000		490,000		490,000		

● 長期履修学生制度（4年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	—	—	—	—	—	—	—	入学時のみ
授業料	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	
施設費	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
教育充実費	25,000	—	25,000	—	25,000	—	25,000	—	
納付金合計	400,000	175,000	200,000	175,000	200,000	175,000	200,000	175,000	
年間納付金額	575,000		375,000		375,000		375,000		

※本学出身者の入学金は、100,000円。

※納付金の納入時期は、初年度は入学手続時と後期（9月）に分納。2年次以降は前期（4月）・後期（9月）に分納。

※本学の教育研究活動の充実及び施設設備の拡充を図るため、入学後、任意の寄付金のご協力をお願いすることがあります。

※終了年次の納付金（後期分）に合わせて、同窓会費20,000円を別途納入いただけます。

奨学金制度

◆ 日本学生支援機構の奨学金（貸与）

日本学生支援機構の奨学制度は、人物・学業ともに優秀かつ健康であって、経済的理由により就学困難な者に、学資の貸与を行い教育の機会均等を図ろうとする奨学金制度です。

奨学金名称	主な条件		金額
日本学生支援機構 第1種（無利子）	成績	大学もしくは大学院における成績が特に優秀	月額 5.5・8.8 万円（貸与） ※上記の月額から選択
	収入	本人もしくは配偶者の年収が日本学生支援機構の定める収入基準以下であること	
日本学生支援機構 第2種（有利子）	成績	大学等における平均水準以上	月額 5.0・8.0・10.0・ 13.0・15.0 万円（貸与） ※上記の月額から選択
	収入	本人の年収が日本学生支援機構の定める収入基準以下であること	

● 教師になった方に対する奨学金の返済免除制度について

子ども人間学専攻 対象

専修免許状を取得し教員採用選考等に合格するなど、所定の条件を満たす方は大学院在籍時に貸与を受けた日本学生支援機構第1種奨学金の返済が免除されます。詳細は大学院事務室にお問い合わせください。

心理学専攻

● 標準修業年限（2年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	
入学金	200,000	-	-	-	入学時のみ
授業料	250,000	250,000	250,000	250,000	
施設費	100,000	100,000	100,000	100,000	
教育充実費	50,000	-	50,000	-	
実習費	40,000	40,000	40,000	40,000	
納付金合計	640,000	390,000	440,000	390,000	
年間納付金額	1,030,000		830,000		

● 長期履修学生制度（3年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	-	-	-	-	-	入学時のみ
授業料	170,000	170,000	165,000	165,000	165,000	165,000	
施設費	70,000	70,000	65,000	65,000	65,000	65,000	
教育充実費	40,000	-	30,000	-	30,000	-	
実習費	30,000	30,000	30,000	30,000	20,000	20,000	
納付金合計	510,000	270,000	290,000	260,000	280,000	250,000	
年間納付金額	780,000		550,000		530,000		

● 長期履修学生制度（4年間）

（単位：円）

	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
	入学手続時	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
入学金	200,000	-	-	-	-	-	-	-	入学時のみ
授業料	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	
施設費	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	
教育充実費	25,000	-	25,000	-	25,000	-	25,000	-	
実習費	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	
納付金合計	420,000	195,000	220,000	195,000	220,000	195,000	220,000	195,000	
年間納付金額	615,000		415,000		415,000		415,000		

※本学出身者の入学金は、100,000円。

※納付金の納入時期は、初年度は入学手続時と後期(9月)に分納。2年次以降は前期(4月)・後期(9月)に分納。

※本学の教育研究活動の充実及び施設設備の拡充を図るため、入学後、任意の寄付金のご協力をお願いすることがあります。

※終了年次の納付金(後期分)に合わせて、同意会費20,000円を別途納入いただきます。

教育訓練給付制度（一般教育訓練給付）

子ども人間学専攻・心理学専攻 対象

教育訓練給付制度とは、働く者の主体的な能力開発の取組み又は中長期的なキャリア形成を支援するため、教育訓練受講に支払った費用の一部を支給することにより、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

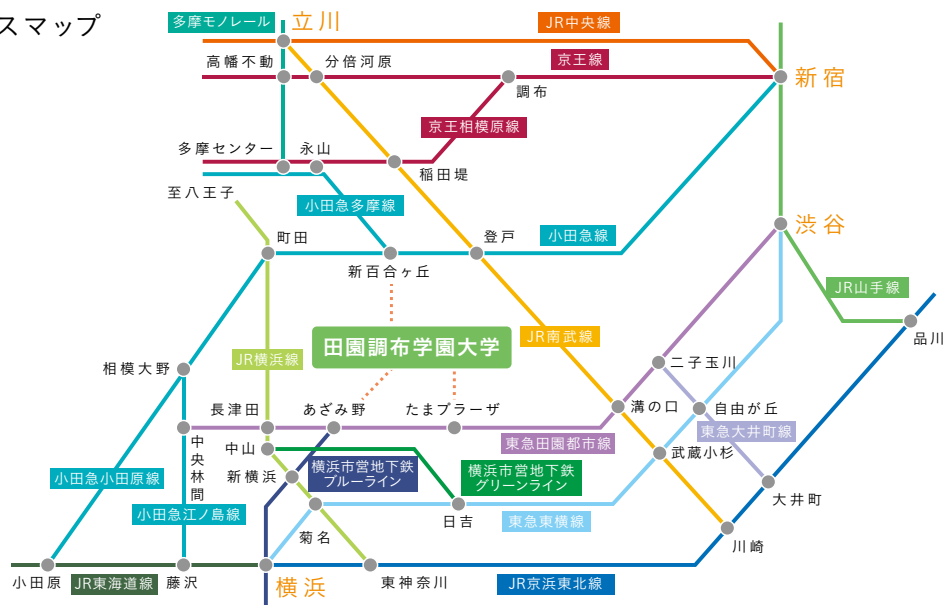
人間学研究科子ども人間学専攻、心理学専攻の両専攻は「一般教育訓練給付金」の対象講座として指定を受けています。

一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者（在職者）または一般被保険者であった者（離職者）が本大学院を2年間で修了し、本人が申請することで、教育訓練経費（入学金および授業料等）のうち20%に相当する額（上限額10万円）の教育訓練給付金がハローワークから支給されます。

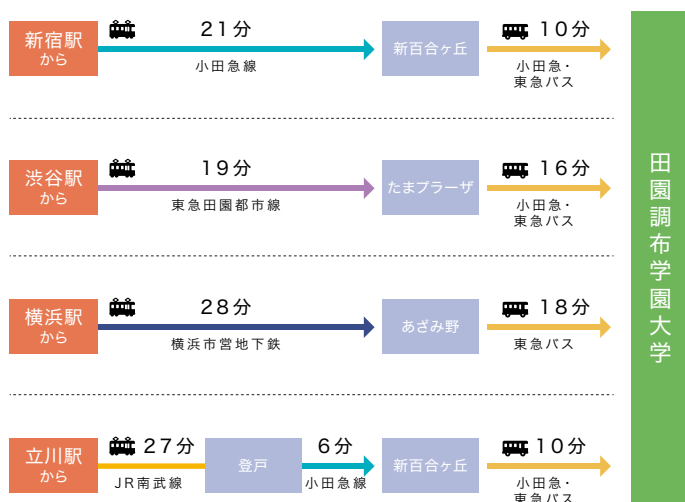
※支給条件等の詳細は厚生労働省ホームページをご確認ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html

アクセスマップ



主な駅からの大学への所要時間



徒歩マップ



最寄駅からのバス便

- 小田急線「新百合ヶ丘駅」下車→小田急バスの番のりば「田園調布学園行」終点下車(バス約10分)
- 小田急線「新百合ヶ丘駅」下車→小田急バスの番のりば「たまプラーザ駅行」田園調布学園前下車(バス約10分)
- 東急田園都市線「たまプラーザ駅」下車→小田急バス⑥番のりば「新百合ヶ丘駅行」田園調布学園前下車(バス約16分)
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄「あざみ野駅」下車→東急バス④番のりば「田園調布学園大学行」終点下車(バス約18分)

入学 相談会

2026年
9/6(土) 10/11(土) 10/25(土) 11/8(土) 12/6(土) 1/24(土)

研究室訪問や授業見学は、希望者と日程調整のうえ随時対応します。大学院事務室までお問い合わせください。

DCU
田園調布学園大学大学院

お問い合わせ先 田園調布学園大学 大学院事務室 Tel. 044-966-3565(直通) Fax. 044-966-1775
〒215-8542 神奈川県川崎市麻生区東百合丘3-4-1
Mail : daigakuin@dcu.ac.jp URL : <http://www.dcu.ac.jp>